

明治安田生命グループ クオリティの高い総合保障サービスの提供へ向けて

## 業界初「国内関連会社共通の新会計情報システム」の導入について

明治安田生命保険相互会社（社長 金子 亮太郎）では、国内関連会社共通の「新会計情報システム」の導入を、2005年7月から開始し、同年9月までに国内関連会社中24社において完了します。

当該システムは、単なる連結決算等の会計処理の迅速化・効率化にとどまらず、多角化している国内関連会社の事業単位ごとに損益をタイムリーに把握すること等により、コーポレート・ガバナンスの向上や効率化を推進し、更に、会計事務処理工程の標準化により、事務リスクの軽減やアカウントビリティの向上もあわせて実現いたします。

当該システムの導入効果は、事務負荷の軽減や要員の効率的な再配置等による経営資源の再配分を通じて、年間十数億円規模になるものと見込んでおります。

この国内関連会社の共通インフラの整備により、当社グループ経営の合理化と合併効果をいっそう加速させ、当社生命保険事業とのシナジー効果を発揮して、クオリティの高い総合保障サービスの提供に努めてまいります。

なお、当該システムは、関連会社の「明治安田システム・テクノロジー（株）」が開発および販売をしており、今後は企業グループ経営のインフラシステムとして、当社グループ外への販売も行なう予定です。

### 「新会計情報システム」の概要

#### 1. 関連会社相互間および親子間の財務報告を自動集計化

年2回の連結決算（決算・中間報告）ならびに所轄官庁への届け出資料の作成等を自動集計化し、決算対応時の事務負荷の軽減と迅速化を図ります。

#### 2. 事業別・部署別の収支管理を高度化

事業別・部署別に、予算と実績の対比や前年比較等の情報を詳細かつ迅速に把握することが出来、収支にかかる経営判断が随時可能となります。

#### 3. 事務処理工程および事務帳票類の標準化

各関連会社で独自に行なっている経理事務の手順、決裁権限および入出力帳票を標準化することにより、事務リスクを軽減し、関連会社監査の効率化等が可能となります。

#### 4. プログラムおよびデータを一元管理

明治安田生命関連会社専用のネットワーク環境を拡張し、当該システムをこのネットワーク上で稼働させます。これにより各社個別に利用していたさまざまなネットワーク環境が共通化され、プログラムおよびデータを一元管理するとともに、明治安田生命本体と同様の高度なシステムリスク管理を実現いたします。